

地方自治ここにあり 首長インタビュー

先人の思いをつないで、 全国唯一を活かした、笑顔の絶えない村に

北山村 泉 清久 村長



泉清久村長

昨年7月に無投票で泉清久北山村長は初当選されました。県下唯一の村として、筏下りや特産のじゃばらを活用した産業振興、教育、健康づくりの施策を聞きに訪問しました。聞き手は、柳田理事と大前です。

大前：泉村長は県職員から北山村教育長をされて、昨年7月から行政運営をされているのですが、行政を進める中で大事にされていることは。

村長：うちの村は385名の小さな村ですので、田舎の良きコミュニティ、住民同士のつながりを大事にしていきたい。僕は村外出身なので、いろんな祭やイベント事にはできる限り顔を出し、そこでコミュニティを取るようになっています。

役場職員も24名なので、一人一人が力を発揮してもらわないと大変です。職員とのコミュニケーションも大事にしています。とにかく、村民に

は笑顔で挨拶、職員に対しては、冗談も含めた声かけです。人は言葉遣いで動いたり動かなくなったりするので、言葉遣いには気をつけてという感じでやっています。

村の人たちには、明るくなつたねとか。いろんなイベントもやり、村長はしよつちゅう顔出してくれるなあとか。まだまだ1年足らずなので、これからだと思っています。

柳田：集落は、幾つもあるのですか。

村長：もともとは5集落でしたが、観光筏が着く一番下流の集落は、人が住まなくなつて、4集落になっています。一番大きいのが、役場周辺で、次に温泉のところの集落、そして上流に2つ集落があります。集落はすべて国道169号線沿いにあります。山間部では、幹線道路から枝分かれした所に集落があることがあります。北山村は究極のコンパクトシティです。

柳田：地域交通は、三重の方からのバスだけで、新宮行き

はないようですが、コミュニティバスはあるのですか。

村長：村営バスを熊野市駅まで走らせています。それと三重交通が川の対岸を走っています、それも利用できます。

柳田：村営バスはどこへどれくらいの頻度で走るのでですか。

村長：朝夕、熊野市まで往復で、それは、熊野市駅のJRの特急に合わせています。村内では、温泉から一番上の集落まで日に2往復走っています。国道沿いに集落があるので、バスも国道を走ればすべて対応できます。熊野川からの奥瀬道路の3期工事が終われば道が良くなります。新宮・本宮方面からの観光客も呼び込みみたいので、公共交通をみんなで考えようと検討しています。

全国唯一の観光筏下り

大前：昼食をとった道の駅には、若い人も多かったですが、観光にも力を入れているようですね。

村長：うちで、観光といえば、北山川観光筏下りです。近年注目を浴びています。昨年は5月から9月の5カ月間で8279人。過去2番目に多か

目次

地方自治ここにあり 首長インタビュー 先人の思いをつないで、 全国唯一を活かした、笑顔の絶えない村に 北山村 泉 清久村長……	1
和歌山大空襲の惨劇を伝え、 悲惨な歴史を繰り返さないために 元和歌山市立博物館副館長 高橋 克伸さん……	6
2025年度総会報告 ……………	8

わかやま住民と自治

発行／和歌山県地域・自治体問題研究所
和歌山市太田2丁目14-9 太田ビル203号
TEL・FAX 073-488-3127
jichiken@crux.ocn.ne.jp 2025年9月号



観光筏下り (北山村観光サイト HP より)

つたです。運行は天候にも左右されますが、昨年は天候に恵まれました。とにかく、もっと知ってもらおうと、都市部でのイベントに参加してPRしています。今年も9回出かける計画です。今日も担当者が行っています。

柳田：どこらへ行くのですか。
村長：近畿圏、中部圏で大阪、名古屋が多いですね。たまに

東京にも行くのですが、遠くからだと筏下りだけで来ていただくのは難しい。例えば、新宮のどこかへ来て、筏も一緒に乗るような、コラボしたツアーがいると思っています。

乗客は、今までは50代前後の方が多かったのが、昨年20代が2割と一番多くなり、インバウンドも多くなってきました。都市部でのPR効果もあるし、若い人はインスタとかのSNSでどんどん発信してくれそうです。筏下りのインスタのフォロワー数も、去年は1500程だったのが、今は5000を超えてきています。SNSの発信は、効果があると思っています。

今年、筏師さんの処遇改善や経費高騰のため乗船料を1000円アップ(7700円)しました。それで乗船客が減るのではと心配したのですが、全然影響がなくて、昨年以上に予約も入りがありました。

600年余り続く筏下りの中で、昨年8月に初めて女性筏師が誕生しました。それがNHKや民放で取り上げられたり、いろんなところから取材申込みがあって、ちよっと話題になっています。

村出資の会社で、 じゃばら振興と村内での 雇用をつくる

大前：(株)じゃばらいず北山は、じゃばら製品の製造販売と、ふるさと納税支援業務をしているようですが、100パーセント村の出資の会社でしょうか、60人程職員さんがいると聞いたのですが。

村長：そうですね。村の出資で、正職員と契約社員で50数人、パートまで入れると70人程になるかな。

村内のじゃばら加工場の方で20数人。ふるさと納税の受託の関係で、新宮や田辺、広川等のオフィスに職員がいます。県内12市町村の委託を受けてふるさと納税のお手伝いをしています。

大前：経営のノウハウを会社がお持ちなのですか。

村長：そうですね。令和2年に会社を立ち上げて6年目になります。社長は、元々役場の職員で、じゃばら振興の担当もしていました。村でじゃばら事業を始めた当初は、毎年何千万円もの赤字でした。今年あかなんだらやめようかとなったときに、彼が通販の楽

天に出店したのです。ちよっと通販のサイトがはやりだした頃で、それが転機になりました。

また、顧客の中で、毎年たくさん買ってくれる人がいて、その理由を聞くと、「花粉症に効果がある」と「そんなことある？」という事で、1000人程のモニター調査で、半分ぐらいの人が、効果があったという回答がありました。それで人気になったという感じです。

大前：じゃばらは村営農園があるのですか。

村長：村全体でじゃばらの収穫量は大体110トン。村の農園というか、北山村が出資している、北山振興(株)が生産しているのが6割ぐらい。それ以外に、個々の農家の方が、組合員30数名で4割ぐらいを作っています。村のじゃばらは、全量(株)じゃばらいず北山が購入して製品に加工しています。

じゃばらの収穫は柚子などと同じ11月で、昨年の買取り価格はキロ340円。キロ単価はいいと思います。その単価も毎年、農家の生産者組合と(株)じゃばらいず北山で、単価の協議がされます。

じゃばら製品の売上上げは、昨年で4億5000万円ぐらい。これが過去2番目になります。じゃばらもマスコミとかの露出が多かったので、昨年よりも4、5千万円上がりました。カゴメさんの「野菜生活100」シリーズに、じゃばらのジュースを作ってもらい、期間限定で全国展開してもらいました。もう一つは、UHA味覚糖の「邪払のど飴」にうちのじゃばらを使ってもらっています。テレビではNHKの『所さん!事件ですよ』とか、TBSの『がちりマンデー!!』で取り上げられました。テレビの効果は大きくて、売り上げ増につながりました。カゴメさんや味覚糖さんのような大手企業と取引ができるのは、令和5年11月に新しいじゃばら加工場が出来て、衛生管理の評価を得られたことが大きいです。

もう一つは、今までじゃばら製品のパッケージが、バラバラだったのを、「じゃ」の文字でパッケージを統一しました。そんなこともやっています。

また、原種原木のブランドを強化していこうということ、今年から生産者の調査や



村のじゃばら畑

じゃばらの研究を進めてい
す。それに、花粉症やアレルギーに効くという機能性表示食品の届出をしていこうと考
えています。購入された方が、
花粉症に効くとか言ってくれ
るのはいいのですが、こちら
からも効果を売りにできるよ
うに機能性表示が出来るよう
に、ちゃんと治験もやってい
こうとしているとこなのです。

大前：国は地方創生で地域商
社とかを推進していますが、
（株）じゃばらいず北山はその
先駆けのような気がしますが。
村長：うちの場合、（株）じゃ
ばらいず北山と北山振興（株）
と2つの会社があって、外貨
を稼いでくる（株）じゃばらい
ず北山と、観光筏や、村内の
プロパン、ごみ、水道の管理、
料金徴収というようなことも
含めてやっている北
山振興（株）。夏場は
筏に乗っているの
ですが、筏シーズンが
終わると、じゃばら
の収穫とか、森林組
合からの依頼で山に
間伐にも行きます。
あとは村営バスやス
クールバスの運行を
担っています。

柳田：北山振興（株）
に従事されているの
は何人ぐらい。
村長：今、筏師で16
人かな、筏に乗らな
いバスだけとか、そ
ういう人も含め、大
方20人ぐらいかな。
そういう意味では、
村内での自己完結型
というか、村内で仕
事を回しています。

「子どもは村の宝物」 子どもに豊かな 体験をさせたい

大前：以前の首長インタビュー
の時に、幼児の英語教育や
外国へ留学に行くという話を
されていましたが、教育や子
育てにも力を入れていると思
うのですが。

村長：そうですね、「子どもは
村の宝物」という合い言葉の
中でやっている、2代前の奥
田村長のときから、これから
は海外にも目を向け、英語
の習得が必要だと、英語教育
と異文化の学習に力を入れて
きました。保育所の3歳児か
ら、中学校卒業まで、学校の
授業とは別に、毎週、英会話
教室という塾を放課後、学年
に応じてやっています。15年ぐ
らい続けています。その集大
成として中学校2、3年生が
隔年にアメリカへ短期留学に
行きます。ちょうど今年の夏
休み、アメリカ、サンディエ
ゴとロサンゼルスへ18日間5、
6人が行くのですけど、みん
なバラバラにホームステイし
て、午前中は語学学校で勉強
、昼からはいろんな活動をして
、土日はホストファミリーの方

に観光に連れて行ってもら
うとか、今年はドジャースの大
谷選手の試合が組み込まれて
いるようです。

それに、最近パソコンだ
とかで字を書く事が減っている
ので、小学生を対象に毎週水
曜日に書道教室を、また、同
じく小学生を対象に体操教室
を隔週に行っています。

大前：海外短期留学や英語塾
、修学旅行も村の費用ですか。

村長：そうですね。うちは小
さいからこそこできること
です。他にも出産祝い金、入園、入
学祝い金。ベビーカーやチャ
イルドシートの貸出し、乳幼
児への絵本配布。それに一番
大変な、高校への通学助成を
月2万円補助しています。
高校は、新宮の高校か三重
県熊野市と御浜町にある熊野
青藍高校とかに行きます。三
重県側には、バスで通えます
が、新宮ではどうしても寮に
入ることとなります。寮費も
月3、4万円かかり、その内
2万円を補助します。それと
は別に、育英奨学金というこ
とで、高校生には、月3万円
、大学生には月5万円を貸出し
て、それは返してもらおう
ですが、返済は20年間で無利子
、そういうこともやっています。

大前：それで、子どもさん達
は、村に戻ってこられますか。
村長：戻ってくる人と、やつ
ぱり向こうに居着いてしま
う人と、まあ、いろいろです。
小さな村でのこぢんまりと
した人間関係だけでなく、小
学校、中学校の時に、いろん
な体験をさせたいというこ
とで、それがための海外でもあ
ります。太地町とも交流し、
小学5、6年で、白馬のスキ
ーに一緒に行きます。中学生
の修学旅行も今まで東京でデ
イズニールランドでしたが、思
い出づくりの修学旅行よりは、
この時代なので、平和教育に
力を入れたらという事で、前
回から沖縄へ修学旅行するよ
うにしました。

そんなことで、外に出て、
いろんな体験とか、いろんな
人との接触、そういうことを
盛んにやっています。
教育とか保育もそうですが、
どんどんやり方が進化してい
ることから、それについて行
ければと、昨年2月に和歌山
大学と協定を結んで、学生さ
んがこっちへ来ていろんな活
動をやってくれています。今
年も夏には学童保育に教育学
部の学生さんが来てくれたり、
筏下りの受付や、じゃばら収



2年前に新設されたじゃばら加工施設

移住や地域おこし協力隊の取り組み

穫に来てくれたりとか。6月13日には、和歌山信愛大学とも協定を結んで、保育園の「誰でも保育」の取り組みや、保育計画へのアドバイスを頂いたりしています。ほかに、京都工芸繊維大学や日本大学からも来てくれるということ

で、そういう外からの刺激も受けながら、やっていきたいと思っています。

とにかく「子どもは村の宝物」ということで、その子たちがここで経験を、都会に居ても、北山村を応援するよ

うな気持ちを持ち続けられるようになればと思っています。

柳田：そういう村の取り組みを聞いて、移住して来るというようなケースは。

村長：あると思いますが、ここ数年は移住された方は少ない感じです。移住発信をもうちょっとしなければとも思います。

ほかのところがやっているように、家を用意して、誰でもどうぞと言えば、来てくれるかも知れませんが、それはあまり良くないかなと思っています。移住したいという人には、いろんなパターンがあつて、自分勝手に田舎で悠々自適したいから、集落に入ったときに、集落の共同作業、草刈り、道普請、そういう活動に何にも関わらないということになると、コミュニティが壊れるような、そうならないようにし

たいと思っています。しかし、以前から移住には力を入れて来て、村には公営住宅が4カ所に40軒程あつて、移住者には、定住補助金として、家賃補助も出しています。

大前：地域おこし協力隊とか、集落支援員さんとか、地域を支援する制度がありますが。

村長：今、地域おこし協力隊は2人で、1人は観光センターの観光協会で筏下りの事などをやっています。その方がSNSでいろんな発信をしてくれて、それでフォロワー数がバーンと上がりました。そして今年4月から、森林組合に1人入って、山林を活用する全体の整備計画に力を入れてもらっています。森林ゾーニングをして、林業として成り立つような山と、林道から遠いとか、急峻で林業は難しいというような条件のところ、それを採算も含め検討して、経済林と環境林に分けて、それに応じた整備をする。そういうことを航空写真とかレーダーやIoTを使い、また、

防災・耐震対策の取り組み

ITは強いようです。また、役場職員も昨年5人採用しました。皆村外から来て村に住んでくれています。

大前：能登地震でも、孤立集落になったということもありましたが、災害の関係での対策は。

村長：災害で道が寸断されたら孤立するだろうと。平成23年の紀伊半島大水害のときも、結構、道が通れなくなりまして。それで2、3年前に村内全戸に、3日分の非常食を配っています。先ほどの話のように、奥瀬道路の3期工事が進んでいます。改修終了に合わせて道の駅周辺を再整備したいと考えています。再整備には防災機能を兼ね備えた。例えば自衛隊が災害復旧に来たらここをベースにしたり、何箇所かバンガローを作つて、応急仮設になるようなことを考えています。

北山村は、水害は結構経験していますが。大地震は誰も知らない。水害は、台風の予測とか時間的余裕もあるけれど、地震はいつ起こるのかわ

からず心配しています。地域には古い家がいっぱいいて、県の補助などで耐震診断は無料でやれますがその後の改修には、補助金では足りずに高額な費用負担になる。特にお年寄りには、家にお金はかけられんよと言つて進まない。能登半島地震でも、家が潰れての圧死、そのあと火事での焼死が見られたので、とにかく圧死を避けたいと思いました。それで、部屋に置く耐震シェルターや耐震ベッドの導入を図っています。40万円を基準として、3分の2まで国・県の補助で、3分の1を村で負担して、村民の持ち出しなしで、40万円までの耐震シェルターや耐震ベッドを住民の皆さんに普及させようと、今年から始めています。

大前：そうですね。村長：消防団ともいろいろやっています。うちは消防署がなく、緊急のときの救急消防は新宮市に委託をされていて、熊野川から来てくれます。それも大地震で道が寸断されるとどうなるか分からないので、消防団だよりになります。昨年、地区ごとに、避難訓練や防災訓練を、少しずつ進めています。また、女性消防

隊が壊れるような、そうならないようにし

たいと思っています。しかし、以前から移住には力を入れて来て、村には公営住宅が4カ所に40軒程あつて、移住者には、定住補助金として、家賃補助も出しています。

大前：能登地震でも、孤立集落になったということもありましたが、災害の関係での対策は。

村長：災害で道が寸断されたら孤立するだろうと。平成23年の紀伊半島大水害のときも、結構、道が通れなくなりまして。それで2、3年前に村内全戸に、3日分の非常食を配っています。先ほどの話のように、奥瀬道路の3期工事が進んでいます。改修終了に合わせて道の駅周辺を再整備したいと考えています。再整備には防災機能を兼ね備えた。例えば自衛隊が災害復旧に来たらここをベースにしたり、何箇所かバンガローを作つて、応急仮設になるようなことを考えています。

団も作っています。

大前：そうですね。

村長：女性団員も14、15人になって、3人が防災士の資格を持っていきます。その方々に、各地区での防災訓練のときの講演や説明をしてもらいます。

村長：そこがだんだんしんどくなってきたのも事実です。今年の予算は約20億円。収入20億円の内4億円、5分1をふるさと納税で見込んでいます。

柳田：5分の1ですか。

柳田：5分の1です。

村長：それがあから、高齢者福祉とか、子育て、教育、村民のためにお金を使えるというのがあります。

大前：人口一人当たりの納税額が全国1位になった時がありましたよね。

村長：そうですね、令和4年、かな、9億6千万円で、人口が少ないので全国1位でした。その後、基準の変更などもあるって、今はそこまではいかななくなっています。

今もどうにかこうにか、やっていきますけど。やっぱり小さな予算規模なので、ちょっと大きな事業をするとボンと跳ね上がるし、終わったらスツと戻る。僕も県の予算を組む時には、対前年シーリングとか言っていました。全体ではそうはなりません。全体でのやりくりとか、計画的な整備とか、一度に幾つもの大きな事業を進められないので、ちよつと平準化をしないとい

けないという感じ。結構古い公共施設、建物が多く、この役場も昭和41年に建てたものですが、こういう古い施設を、改修なのか、建て替えなのか、計画的に整備していくことにしています。

柳田：医療関係は。

村長：国保の北山診療所が1つありまして、そこには医師が常勤しています。大きい病気が怪我になると、新宮市の医療センターや三重県御浜町の紀南病院に行くことになります。とにかく、うちは病気にならないように、予防医療に力を入れていて、がん検診とか、いろんな検診も自己負担なしでやっています。

大前：健康づくりの何かポイント制をしているとか聞いたのですが。

村長：検診を受けたら何ポイントとか、歩いたら何ポイントとか。「歩け歩け」というのを、この辺の方言では「あいべあいべ」と言うので、「あいべあいべポイント」ということで、月にどれだけ歩

いたとか、検診を受けた、シニアのエクササイズへ行ったら何ポイントとかあって、それでポイントを貯める。それが一定の基準までくると、村で使える商品券を頂ける。健康増進の取り組みです。

住民が385人ほどなので、診療所の先生は、みんなの顔が見えています。この人は何の持病で、どの薬を飲んでい

るのか全部分かることから、顔の見える予防医療に力を入れていこうとやっています。

大前：診療所の先生は確保できているのですか。なかなか僻地医療は大変だと聞くのですが。

村長：以前は和医大からの派遣だったのですが、今はうちで独自に雇っています。それも何年間という契約で来てくれて、その先生が頑張ってくれています。

診療所の治療だけではなく、保健師や看護師と一緒に訪問診療や指導にも行ってくれるし、診療所の隣に社協があるって、そこには生活支援ハウスがあり、常時8人から10人のお年寄りが生活しています。それも全部合わせて、診療所の医師、看護師、リハビリの先生、保健師、役場住民福祉

課、社協職員が2週間に1回カンファレンスをやって、患者や住民の情報共有をするようにしています。

大前：これからの施策や村長の思いはどうですか。

村長：そうですね、先ほど言ったように、とにかく小さな村ですけど、賑わいのある、いつも笑顔の絶えない村でいたいと思います。賑わいを作るためには、いろんな仕掛けも必要だと思います。今も頑張っていますが、もっと村に来てくれる施策や、移住や、関係人口とか、応援してくれるようなことも必要です。全国唯一の飛び地で、唯一の筏下り、原産のじゃばら、その3つを大事にしなげら、やっていきたいと思っています。

ここまで、何代にもわたって、存続してきてくれた先人の思いを引き継いでやっていかなあかんと、みんなにもよく言っています。人口減少に、どれだけ立ち向かえるかを考えながらやっていきたいと思っています。

大前：お忙しい中、長時間、ありがとうございました。

財政運営は ふるさと納税の活用と 計画的な施設整備

柳田：さつきからの、子どもに対する施策や、防災施策とか、村の財政との関係では、

柳田：さつきからの、子どもに対する施策や、防災施策とか、村の財政との関係では、